

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1173800432		
法人名	ユニマット リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	加須グループホームそよ風		
所在地	埼玉県加須市平永939-4		
自己評価作成日	令和4年3月22日	評価結果市町村受理日	令和4年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和4年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当施設の理念でもある「専門職としての自覚」「孤独ゼロ」「ご利用者様とご家族の架け橋」を常に意識しながら、安心して生活が送れるように努めている。
 品格のある看取りに努めており、医療連携は往診医、訪問看護師、管理薬剤師、訪問歯科、訪問リハビリ等と充実しており、ご家族様の要望に沿うように努めている。また、連携先への受診は全て無料で施設で行っている。利用者様の思いに寄り添い、職員が専門職としての自覚を持ち、愛情のあるケアに取り組んでいる施設である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・理念が示している意味の理解に努められ、「専門職としての自覚、地域への貢献、孤独ゼロ、入居者・家族の懸け橋」の考えのもとに支援が行われ、職員は積極的に意見やアイデアを出し、その工夫に対して管理者は職員を誉め、気持ちよく仕事に向かわれ、サービスの向上に繋がられている。また、感染症予防、安全性の確保に取り組まれ、事業所が閉鎖的にならないよう家族との面会方法などに工夫を図り、絆を大切に、「品格ある看取り」の実施にも取り生まれている。
 ・運営推進会議は、文書方式で行われ、議事録は参加者に届けられている。特に市担当者とは窓口で直接報告をすることで、事業所への理解を深めていただき、様々な情報を得ることができ、事業所の運営にも反映されている。
 ・目標達成計画の達成状況についても、災害対策において、新入職員を中心に災害発生時の対応についての訓練を実施し、初期消火や通報の仕方などの指導が行われたことから目標が達成されている。また、外出の方法や事業所内のレクリエーションの有り方についても取り組まれ、成果に結びつけられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットのスタッフルームに理念を掲示している。丸暗記するよりもその内容を理解して貰うように心がけている。「専門職としての自覚・地域への貢献・孤独ゼロ・家族との懸け橋」のように覚え、実践に結び付けている。	理念が示している意味の理解に努められ、「専門職としての自覚、地域への貢献、孤独ゼロ、入居者・家族の懸け橋」の考えのもとに支援が行われている。各部署での職員のレベルアップにも取り組まれ、質の高いケアが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防の観点から、今期は屋内の行事になる事が多かったが、地域との交流は出来なかった。また、地域の行事もその多くが中止となりそれに合わせる形となった。CMが時折手紙を出して近況報告は行っている。	近隣との結びつきは強く、大家さんや民生委員とのつきあも大切にされている。看取り後の入居者の家族との関係が長く継続され、野菜が届いたり、大家さんのバラ園を見学に行くなどのつきあいが続けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	病院の相談員からCMに看取り退院の方の入居相談が増えている。今期は2件ほどご入居頂くことが出来た。お一人は担当医のお見立て通りご逝去となったが、もうお一人はお元気に生活されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今期は書面提出で行う会議のみとなった。市の担当者やCMとで報告や連絡事項の確認が行われた。ご家族からテレビ電話の活用希望が面会出来ない事で写真や報告書を充実させる努力をした。	運営推進会議は、コロナ化禍で対面での開催が困難となり、現在は文書方式で行われ、事業所や利用者の状況を写真や書面にまとめ、議事録は会議のメンバーに届け意見等を伺い、会議の代替えとされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の担当者との関係は良好で、細かな情報や質問も随時行っている。今期はコロナ関連の情報共有や交換が多かったが、メールも頻回にやり取りが行われ、記録に残せる連携が取れた。	市担当者とは運営推進会議の議事録を窓口で直接報告をすることで、事業所への理解を深めていただいている。また、看取りに関することやコロナ関連についても連携が図られ、協力体制が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアをする為に、3か月に1度の決まった時以外でも施設内研修を行った。主に拘束にあたる事例を取り上げた。職員がお互いに注意できる声掛けの実施に取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会は定期的に開催され、「入居者優先、生活の自由を制限しない」ことを基本に取り組みされている。各種研修会も実施され、スピーチロックの指導が行われた後は、職員からの声のかけ方や言葉の選び方などに変化がみられるなどの効果が表れてきている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ感染予防でのストレスが、通常の介護に加えて増えたことは自覚していた。その上で、気がつかないイライラで利用者に接したりすることが有る事も理解し、お互いに注意しあえる環境づくりに努めた。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一般的に持っている知識ではないので、研修の機会が無いと中々理解することは難しい為、会社のリモート研修制度を利用して時間のある時に順次見て勉強して貰っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	わからない事や疑問点には丁寧に説明を加え、ご納得いただけるまで対応している。また、契約時から変更があった事項等は速やかに郵送で変更内容に同意などをお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルス感染症予防の観点から家族会が開催できない中、毎月の月間報告書に加えて手紙や写真を添えて施設の情報を配信したり、LINEを使用して情報交換をした。それを職員と共有し運営に反映している。	入居者からは「〇〇が食べたい」、「外に自由に出たい」などの要望が出され、ケアプランにも盛り込まれている。また、家族から「今何をしてくれるか」の声に応え、安心していただくためリアルタイムで入居者の様子を動画で送るなどの取り組みが行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	楽しく働ける環境作りをテーマとし、個々の意見を聞き取り良い案は大いに取り入れ現場に反映させ、既存の決まりを押し付けではない皆で作る楽しい環境を目指している。	職員からは「下剤の投与回数の変更」や「誕生日やXマスのプレゼントを個々に合わせたものを送る」などの建設的な意見が出され、即実行されている。また、職員がリードし、決まりや押し付けではなく、仕事に追い回されないよう支援に取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の契約更新時に、きちんと面談を行っている。困っている事や悩んでいる事等を聞き取りそれに答えたり、日々の仕事での良い所や気づきに対して評価をし、本人にも自分の価値を知って貰う機会としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は勿論のこと、希望に合わせてリモート研修に参加、スキルを上げる喜びを感じて貰う取り組みをしている。また、必ず評価し本来の力以上のものを引き出すよう「やる気・本気」を培うことに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リモート会議という方法で、今まで顔を合わせる機会の無かった遠方の拠点の多くの職員が交流できている。他の施設の取り組みに刺激されたり、良い点を取り入れていく積極的な向上心が生まれている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護度が高く、ご本人からご希望を聞く事がだんだん難しくなっている。話す事と実際に希望する事をきちんと読み取り実際の思いを理解し、笑顔がサインと捉える方法を取り入れている。ご家族の思いや考えよりも重要になっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナの時期にご入居された方には、医療用のエアクリナーを設置した相談室でじっくり希望や不安な事等を聞ける環境整備をしている。その後も電話やLINEを使いその時々のお状態をお伝えしたり要望を伺い信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	総合的な広い視野でみる事を心掛け、一番必要な支援をプランで形にし、その後も皆でモニタリング実施。その人らしく楽しく無理なく生活できる支援を見つけていく努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	看取りを行っている関係から、ご利用者様から多くの事を学んだ職員が多い。最期の時まで共に暮らす家族の観点からの関係を築いており、日々人生の先輩と捉えて尊敬する部分や愛情を見出している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	質の高い支援を提供し、その絆を大切にしながらご本人を支えるチームとしてご家族と協力し、ご家族も介護に参加している思いになるような相互関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出が規制されている状況であるが、電話での会話や、月間報告書、写真や動画を通して関係が切れないように努めている。今後はテレビ電話も利用する機会を作るように努めている。	大家さんの庭に出かけることが馴染みの行動の一つになり、その様子は写真や動画で家族に伝えられている。DVDで昔のお笑い番組をみんなで見て楽しんだり、入居者同士に新たな馴染みが生まれ、ノンアルコールビールで乾杯されるなどの光景も見られる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話し好きな方が多く、自然に良い関係が生まれている。孤立してしまう事が無いように、複数人の利用者を巻き込んだ話し掛けを意識しながら支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在もグリーンケアは継続している。特にご入居期間が短くお看取りになったご家族には、長く寄り添うように心がけており、また長いご家族は数年経っても施設に来られたり利用者様にお菓子などを届けて下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	気持ちを伝える事が出来る方も困難な方でも、言葉では表せない思いを受け止める事が必要である。繰り返しその受け止め方に間違いはないか、対応する全職員と意見交換(検討)を行っている。私がお本人ならばとの立ち位置で考えている。	職員が「涙が出る」、「手を握る、広げる」などの入居者の表情やちょっとした行為から細かな気持ちの変化を汲み取り、思いや意向の把握に繋げられている。また、職員間でそれぞれの行うケアが入居者にとって間違いがないかを常に話し合うよう心がけられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前に前CMとの引継ぎによるアセスメントや、積極的にご家族から暮らしぶり等のお話を伺うなど情報収集・把握に努め、できる限りその人らしく、望んでいる生活に近づけられる支援の検討を継続している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日朝7時からラウンドを行い、一人一人の状況をしっかり確認、職員からの申し送りの共有をしている。急変時の対応も常に暮らしの現状把握が不可欠である。極力、その場でその都度の問題解決に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する前に担当者会議を行う。ご本人・ご家族・担当職員・嘱託医・薬剤師等の医療関係者も含まれ、それぞれの立場での意見を話し合い結論を導いていく。モニタリングは計画ごとに毎日行って月末に評価している。	入居者それぞれが何をしたいのかをお聴きし、「好きなものを食べる」、「時々ドライブに出かける」などがプラン化されている。現実的で具体的な実行可能なプランづくりを目指し、家族の意向も反映するよう取り組まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット入力による細かな個別記録を付けている。職員間で共有する事も簡単になった。看取り期や薬変更後等には別に統計表での記録を付け、素早く多職種と情報を共有し対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療に特化した施設になったが、既存の状態に甘えることなく、必要な支援があるならば、他へのご紹介や新たにサービスとして取り入れる事も行っている。例として通院リハビリや訪問リハビリを導入した。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、中々交流が持てない時期ではあるが、以前ご利用頂いたご家族との交流があり、人の集まらないお庭で四季の花々を個別に安全に楽しませて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護師や薬剤師と連携し、かかりつけ医に報告。またその結論や情報をご家族に報告・希望の聞き取り。その一連の流れや内容をかかりつけ医は把握し必要な医療を提供している。	日常的には協力医療機関の往診を受け、訪問リハビリや訪問看護との連携も図られている。各医療機関とのコミュニケーションを図り、入居者の症状についてくわしく理解いただいており、入居者の現状に応じた支援がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回のラウンドがあり、施設は全員の利用者様の現状報告を行っている。また、24時間の緊急時対応や相談にも応じて貰う事が出来る。医療への連携が必要とあれば指示が出る。職員が安心できる存在である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携病院の相談員とは日頃から良い関係作りを行っており、入退院時には速やかな連携を取る事が出来る。退院の時期についても、施設への信頼が厚く、早期の退院が実現できている。医師会の医療連携室ともしっかりとした繋がりがある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居の時からご家族と重度化や看取りについての話し合い、その時点での気持ちも把握している。実際に医師からターミナルとの見解があるとプランを立て直し看取り同意書を頂き、社会資源の活用も含めた計画を立て、チームは統一した支援を行っている。	重度化、終末期に際しては、家族と事業所の絆、信頼関係が一番大切と考え、「品格ある看取り」を目指した支援が行われている。常に入居者・家族の気持ちを大切に、コロナ禍の中でも感染対策をしっかりと、家族に最後まで立ち会っていただき感謝された事例も伺われる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は急変時や応急手当は必ずCMへ連絡し、CMは医療関係者に確認を取ってから必要な対応を各自で実施できている。また、緊急時はCMが24時間対応することになっている。訪問看護師にもiPadで実際の状態を確認してもらえる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修は一部の人間に限られるが、その勉強会の内容を全職員に伝達している。また、水害・火災・地震等の訓練も行って、役割分担も行動も明確になっている。ご家族・職員・近隣の緊急連絡網作成済み。	新しい職員を交えた訓練が実施され、職員間の連絡網を使った訓練も行われている。常に自事業所の環境に合わせた対策が講じられ、上階から下への避難方法などは消防署や市担当者にも相談され、検討がなされている。	新人職員も含めた防災訓練が実施されています。災害発生は予測できないことから、全職員が同じレベルで対応ができるよう訓練を重ね、平準化と習慣化を図られることに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長い間認知症と共に生活している方が多いので、表現力の低下が顕著。言葉で表現できない方には特に気を付けて心を読み取る努力をしている。排泄時は特にプライバシー・プライドを認識したケアでの対応を心がけている。	当たり前のことを当たり前に行うことが優先され、入居者の心を傷つけない言葉使い、丁寧な声掛け、人格を尊重した呼び方などが特に重視されている。入居者の心を読み取り、プライドや羞恥心を考慮した対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	夫婦や親子のように毎日共に生活していると、考えている事ややりたい事がおのずと分かるが、私達も同じで、ご自分で希望や思いが言えるように・表現できるように色々な事を想定し質問をするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	全ての方にそれぞれの思いがあり、生涯変わらない部分と変化していく部分とがある。そのどちらにも合わせる事は、その人を知りそして気付く事である。それを支援に結び付けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容が入れないので、職員が全員の髪を希望を聞きながらカットしている。施設内の行事も増やしたので、綺麗な服を着て記念写真も多く撮り喜ばれている。その日にはご自分で服を選んで頂くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今は施設内の行事を増やしており、ケーキやお菓子が楽しみの一つになっている様子。感謝をお伝えしながら配膳や片付けや洗い物などお手伝いして頂いている。職員に褒められる事と一緒に行事が楽しみな様である。	食材業者からの半調理品に加えて、地産地消の材料を使い、手作りのご飯や味噌汁が提供されている。行事にはお寿司やカツ丼が出されたり、家族からはお菓子や果物などが届けられ、食膳に彩が添えられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護度が高く飲食は個別対応が殆どの状況である。特に水分は乾燥の強い時期なので、問題の無い方には1500cc以上を提供。他は医師の指示により提供している。入浴後の水分もしっかり提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれに応じた口腔ケアを行っている。一部介助の方には確認し磨き残しをなくすように支援。全介助の方には、声掛けをし不快感にならない支援に取り組んでいる。月2回訪問歯科医が管理をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄表で記録し、排泄パターンをすべての職員が把握できるようにしている。オムツを減らし、いつまでもトイレで気分よく排泄できるよう支援している。その為立位保持の生活リハビリでの支援も行っている。	排泄の自立を目指し、「立位をとっていただく」ことを基本に支援が続けられている。「生活リハビリ」を中心に訪問リハビリの先生から車いすの入居者でもアドバイスを受けながら自立への取り組みが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便が難しい方が増えており、足上げ体操や腹部マッサージなどの便秘解消運動を職員が覚えて実施している。水分もしっかり摂取して頂き、それでも難しい場合は、なるべく下剤でなく浣腸を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調が優先される入浴になる。バイタルに問題なく体調が良い場合は、午前・午後の好きな時間帯に入浴して頂く。また寝たきりの方でも、自作の寝台浴で2~3人で対応して入浴を可能にしている。	安心・安全な入浴支援に取り組み、入浴前にはバイタルなどの健康チェック、入浴時には皮膚や栄養の状態を確認するなどの対応がなされている。職員2人対応で入浴いただくこともあり、また、入浴剤や薔薇の花を浮かべるなどの気分転換も図られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	医師から加齢による傾眠との見解が出ると、その方のリズムに合わせて静養を取り入れる。また、それが夜間の睡眠に影響されないように、職員はしっかり時間と様子の記録して睡眠の管理をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師は往診医と連携し内服薬の管理をし、CMは週1回薬剤師とカンファレンスを実施(頓服処方時は随時)、薬の内容や起こりうる副反応を職員に伝える。伝え漏れが無いように一斉メールを利用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いをして頂き感謝を伝えると笑顔が溢れる。洗濯物を畳んで頂いたり食器を拭いて頂いたり、毎日楽しそうに軽作業に集中。男性の利用者お二人は、毎日ノンアルコールのビールを楽しんでおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防で、外出支援はほとんど出来ていないが、天気の良い日には車いすや独歩で散歩に出かけている。また、隣のオーナーの家で犬や鶏を飼っており、それを親に行くことも好評である。ご家族には写真で報告。	職員が両ユニットに勤務することで、入居者のADLなどを理解して、感染対策も取りながら積極的に外に出るよう支援が行われている。入居者の要望に応じてドライブに出かけたり、周りに人の少ない場所では車を降りて散歩をするなど、職員の工夫も図られている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は一緒に買い物に出かけるような支援が出来ない状況であり、能力や希望があっても叶える事が出来ず、本当に悲しい状況である。職員がご本人に希望・必要があれば購入してきている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から定期的なお電話を頂いたり、お手紙を頂く事が増えている。お電話を繋いだりお手紙を読んでお聞かせしたりする。面会が出来ない状況の中、楽しみの一つである。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい空間を作る努力をしている。また、随所にある飛沫防止のシートには花の絵を描いたり、緑の観葉植物の絵を描いたりして、重い空気にならないように心がけている。また、テーブルに花を飾ったりと外に出られないストレス解消の工夫をしている。	入居者のための環境づくりを大切に、猫の世話を楽しまれたり、ソファなど好きな所で過ごしていただき、居心地の良さを感じていただいている。また、滅菌装置を取り入れ、新しく入居された入居者や看取りが近い方などの面会に使用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人が好きな方も居られ、居室を利用されたりフロアのソファでくつろがれたり、自由に移動されている。また、スタッフとしての猫がおり、猫のいる場所で横になったりと皆さま思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居後、ご自宅を解体される為ご主人のお位牌をお持ちになったが、若いご家族なのでお仏壇まで気が付かなかった。準備して欲しいとお願ひし、届いたらご本人はとてもホッとしたご様子。ご家族も教えて頂いと喜ばれていた。そんなアドバイスも行うようにしている。	お位牌だけをそのまま持参された家族に仏壇のことを教えてあげるなど、居室づくりへのアドバイスや支援が行われている。それぞれのこれまでの習慣を大切に、危険がないものは自由に持ち込まれ、「ノンアルコールビール」を嗜むなど、居心地よく過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分で自由に動ける方も少なくなりましたが、自立に近い方が動きやすいように掲示物を増やしたり、フロア間の連携でお使いをお願いしながら出来る事の継続を維持している。		

(別紙4(2))

事業所名:加須グループホームそよ風

作成日: 令和 4年 4月 29日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時の対応を把握できている職員とそうでない職員がいるのが現状である。訓練の回数を増やして災害時の対応について把握、実施できるようにすることが課題である。	災害、水害、地震を想定した訓練の実施。災害時の対応を全職員が把握して実施できる。	・避難経路の確認、防災備蓄品の管理、職員の緊急時の体制、ご家族の連絡網の発動等を実施する。 ・必要な所要時間を把握する。	12ヶ月
2	49	コロナ禍で外出頻度も減り、近隣への散歩が多くなっているのが現状である。施設が閉鎖的にならないように様々な工夫をしながら、お客様全員が外出できるような支援が課題である。	コロナ禍であっても様々な工夫をすることで、お客様全員が安心して外出できる。	・近隣センターと日程の調整をして、大型車を借りる。 ・数人に分かれて全員が外出できる。 ・お客様に安心していただけるように、感染予防対策の徹底をし、密を避けて実施する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。